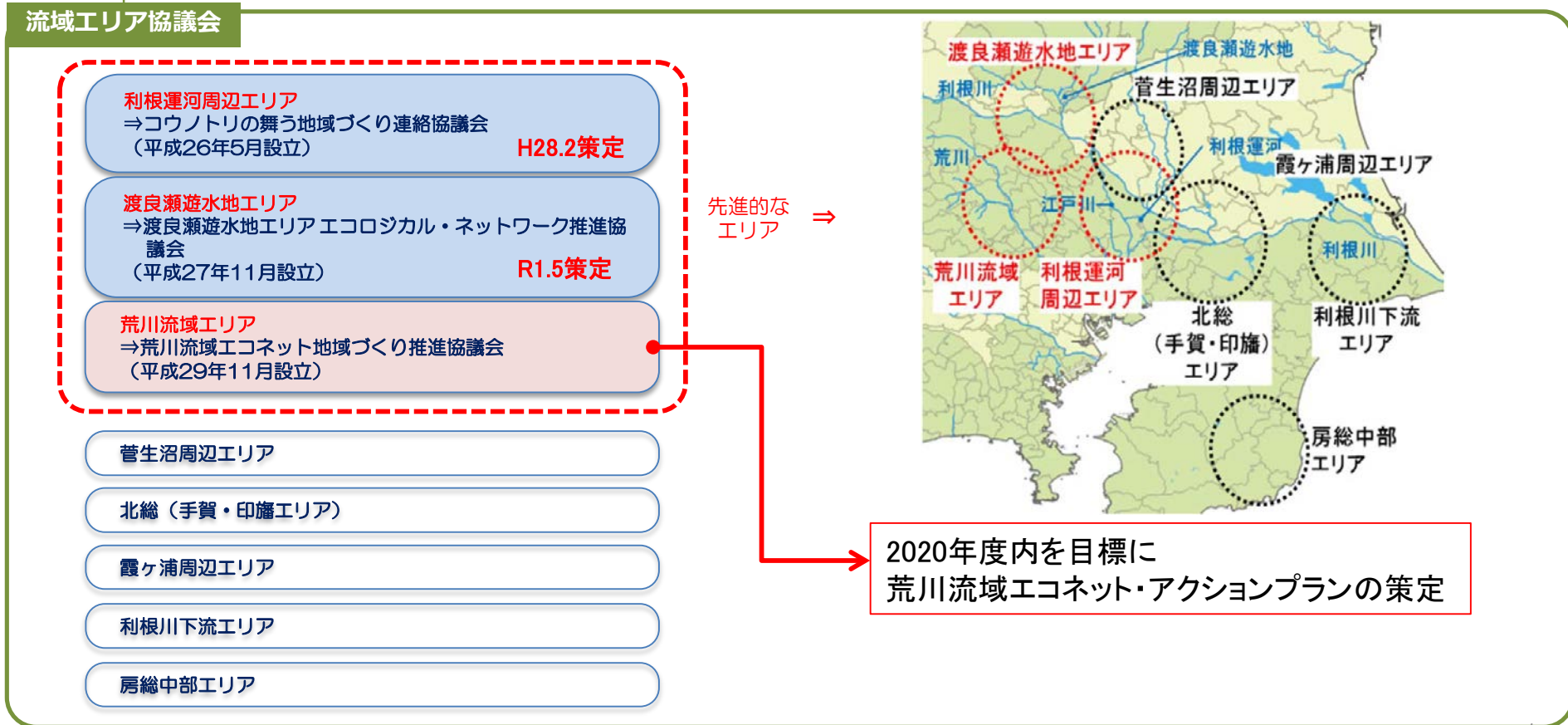
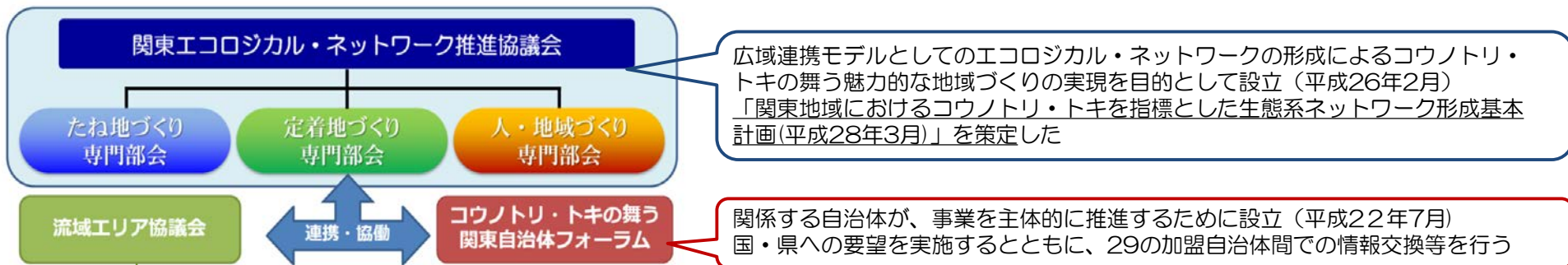


荒川流域エコネット地域づくり アクションプラン（仮）素案 ～副題として将来像の文を挿入～

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会
（令和 年 月）

0. アクションプラン作成の経緯



(目次構成案)

1. アクションプランの目的

2. 荒川流域エリアにおける現状

2.1 荒川流域エリアの成り立ち

2.2 荒川流域エリアの自然環境

2.3 荒川流域エリアの歴史・文化・特産品

3. 指標種・地域づくりのシンボル

3.1 エリア共通の指標種

3.2 地域の魅力づくりに寄与する生きものたち

4. 目指す将来像・目標

4.1 荒川流域エコネット地域づくりの将来像

4.2 荒川流域エコネット地域づくりの目標

5. これまでの取り組み(エコネット地域づくりに関する地域の取り組み)

5.1 生物の生息環境保全に関する取り組み

5.2 地域振興・経済活性化に関する取り組み

6. これからの取り組み(エコネット地域づくり推進のためのアクションプラン)

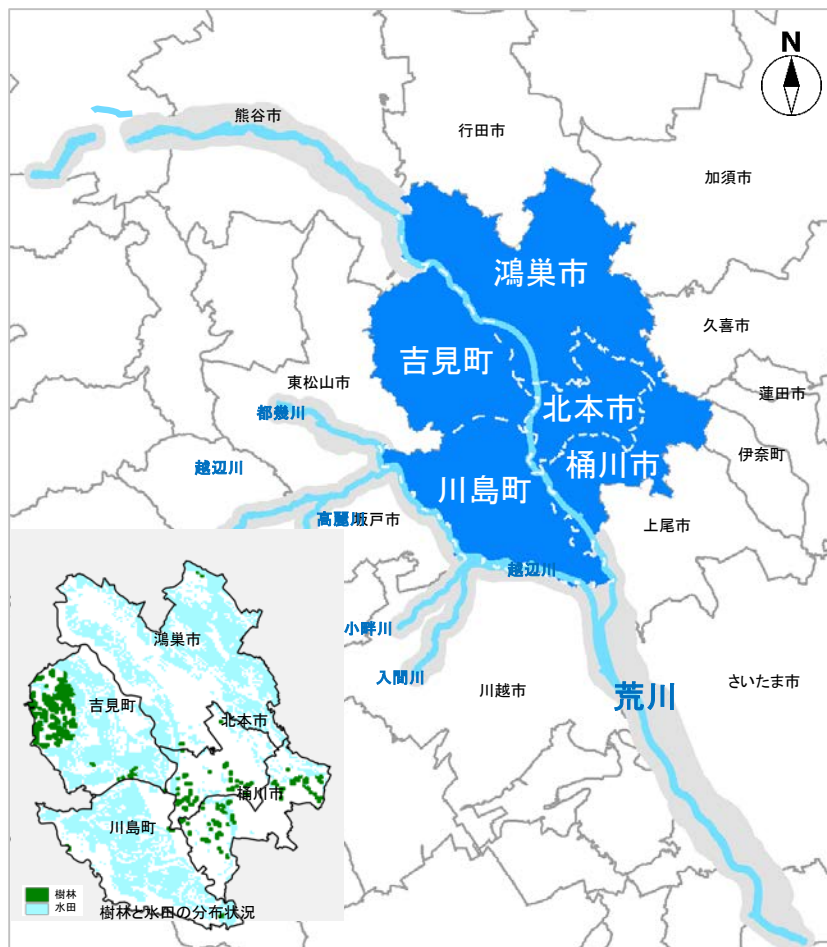
6.1 生物の生息環境保全に関する行動計画

6.2 地域振興・経済活性化に関する行動計画

7. ロードマップ

8. 連携・協働方策

1. アクションプランの目的



荒川流域エリアの範囲

1. 荒川流域における生態系ネットワークの形成に向けて

都心からおおよそ50kmに位置する荒川の中流部では、日本有数の広大な河川敷が広がり、かつて蛇行して流れていた川の跡(旧川)、湿地、河畔林等が残されています。これらの自然環境に加え、低地を中心に広く分布する水田や水路、また台地に点在する樹林は、多様な動植物の生息・生育の場となるとともに、地域の歴史・文化を育む荒川特有の自然環境・景観を形作ってきました。

一方で、近年、荒川の河川敷の乾燥化による湿地の減少、都市化による樹林の減少等により、地域の生物多様性が低下してきています。

こうした課題を踏まえ、鴻巣市、桶川市、北本市、川島町、吉見町の3市2町を「荒川流域エリア」とし、平成29年、エコロジカル・ネットワークによる地域づくりを推進するため「荒川流域エコネット地域づくり推進協議会」を設立しました。

関係機関が連携し、地域の自然環境を豊かにし、さらに地域振興につながる取り組みを充実させることで、魅力的な地域づくりの実現を目指していきます。また、本取り組みにより、グリーンインフラ※1やSDGs(持続可能な開発目標)※2にも寄与できることが期待されます。

※1: グリーンインフラとは社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組です。

※2: SDGs(持続可能な開発目標)とは2015年9月の国連サミットで全会一致で採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標です。

2. アクションプランとは

- このアクションプラン(行動計画)は、本取り組み目標※3の達成に向けて、今後10年で、地域関係者がそれぞれ、あるいは連携・協力して行っていくとする取り組みについて、地域関係者による意見交換のうえとりまとめたものです(具体プランはp11-12)。
- アクションプランは、協議会関係者が、可能な範囲で、連携・協力・調整するなどして推進していくことを想定しています。
- また、5年程度で取り組み状況を確認し、成果や課題を踏まえ、必要に応じて計画を見直ししながら、推進していく予定です。

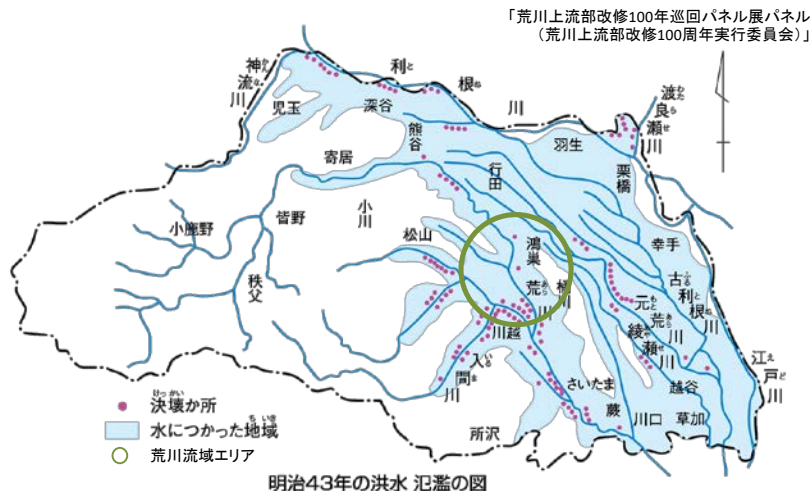
※3: コウノトリ、トキを指標とし、河川及び周辺地域における水辺環境の保全・再生によるエコロジカル・ネットワークの形成、また、それらを活用した地域振興・経済活性化を推進すること。



2. 荒川流域エリアの現状

2.1 荒川流域エリアの成り立ち

■荒ぶる川



荒川は「荒ぶる川」といわれ、古くから洪水による氾濫を繰り返し、荒川流域エリアも含めて周辺はよく水につかりました。こういった場所は、湿潤な土地でもあり、古くから水田が営まれてきました。

■江戸の鷹狩りを支えた生きものの宝庫



江戸時代の鷹狩りの記録から、荒川流域エリア周辺は水辺の自然環境等が豊富だったと考えられます。鷹を使って狩猟する「鷹狩り」を特に好んだ徳川家康は、荒川流域エリアにもよく訪れていました。また、特に川島町や吉見町は、鷹の訓練場として、湿地等の水辺に生息する鶴が頻繁に狩られた記録も残っています。

■地域の生活を支えた荒川の地形



かつて、荒川流域エリア周辺には、底なし沼のような湿潤な水田が多く存在しました。これらの水田は苗を植えながら歩くのは容易ではないため、種もみを直接まく方法で栽培されていました。



かつて、荒川は今よりも蛇行し、緩やかに流れ、水深が浅い場所もありました。そこでは、北本市の小学校高学年の子供たちが授業の一環で泳ぎに来ていました。

2. 荒川流域エリアの現状

2.2 荒川流域エリアの自然環境

■荒川河川敷に息づく生きものたち



周辺で都市化が進むなか、荒川の河川敷に残されている旧川や湿地、ハンノキ等の河畔林等には、カエル類や、日本最小のネズミ(カヤネズミ)や、埼玉県の蝶のミドリシジミ等、さまざまな水辺の生きものの宝庫となっています。一方で、繁茂するアレチウリ等の外来植物の問題もあります。

■広がる豊かな水田や支川・水路、湿地等



低地に多く残る水田は、カエル類や小魚の貴重な生活の場になっています。特にふゆみずたんぼや水田魚道がつながる水田には多くの水辺の生きものがあることがわかっています。支川の越辺川には、毎冬ハクチョウが飛来し、江川の湿地ではサクラソウが咲き誇ります。

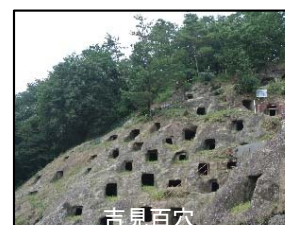
■武蔵野の面影を残す里山林



大宮台地や吉見丘陵等には、昔ながらの里山林が残り、オオタカの子育てや、カタクリ、ニリンソウの可憐な花を見ることができます。近年、これらの樹林は減少しつつあります。

2.3 荒川流域エリアの歴史・文化・特産品

■歴史・文化が感じられる景観



蛇行していたかつての荒川を舟運として利用した河岸跡や、治水のために整備された広大な河川敷や横堤、圍繞堤(輪中堤)は特有の景観を形成しています。周辺では、古墳時代後期の横穴墓群の吉見百穴や、江戸時代から栄えた宿場町や寺社、遺跡等の史跡も多く残されています。

■地域の自然環境に根付いたイベント・特産品



鴻巣の「こうのとり伝説」にちなんだパレードや、圍繞堤を活用した「かわじま輪中の里ウォーキング」等、地域の自然環境を活用したイベントは地域の風物詩となっています。また、荒川の河川敷の川幅の距離が日本一であることにちなんだ「こうのす川幅うどん」等はご当地グルメとして人気です。

■環境にやさしい農産物



有機肥料や減農薬による栽培も進められています。特に、鴻巣市の「こうのとり伝説米」や川島町の「川越藩のお蔵米」は、ブランド米として販売されています。

3. 指標種・地域づくりのシンボル

3.1 エリア共通の指標種

関東地域全体でコウノトリやトキが絶滅の危機から脱し普通に生息できるようになることを目指していることから、荒川流域エリアにおいても共通の指標種としました。



コウノトリ



トキ

指標種	特徴	埼玉県内の生息状況
コウノトリ	・全長: 約110～115 cm (翼を広げた長さ: 160～200cm) ・体重: 約4～5kg ・マツ等の高木の梢で子育てをし、河川、湿地、水田等、草地等で、ドジョウやカエル類、昆虫等を捕食する。	・確実な記録はないが、鴻巣市の鴻神社やさいたま市を流れる鴻沼川等、コウノトリを由来とした地名があり、飛来していたことが想定されている。 ・現在は野田市等が放鳥したコウノトリがエリア内にも飛来する。
トキ	・全長: 約76 cm (翼を広げた長さ: 約130cm) ・体重: 1.5～2kg ・マツや広葉樹の大木の枝分かれ部で子育てし、河川、湿地、水田等、草地等で、ドジョウやカエル類、昆虫等を捕食する。	・明治時代にさいたま市での繁殖や、大正時代に入間郡で捕獲された記録があるが、近年は飛来した記録はない ・関東地域での野外放鳥は、当面はコウノトリを対象とし、トキは、佐渡の取り組み状況を勘案しながら検討を継続するものとされている。

3.2 地域の魅力づくりに寄与する生きものたち

荒川流域エリアは、大宮台地や荒川低地等、地形に富んでおり、それに応じた自然環境が形成され、さまざまな生物がすんでいます。各市町においても、生物種の保護だけでなく、地域コミュニティの形成や自然環境を魅力とした観光・地域振興などに取り組んでいます。



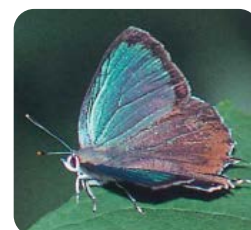
オオタカ

全長50～60 cm。平地から山地の林や農耕地、河川敷に生息する肉食の猛禽類で、鳥類やネズミ、ウサギ等を捕食します。荒川流域エリア内で巣づくりが確認されています。



コハクチョウ

全長約110～150 cm (翼を広げた長さ180～225cm)。日中、水田等でイネの落穂や湿地の植物の根を食べて過ごし、夕方に水面や湿地等で休息します。荒川流域エリア内でも、冬鳥として飛来する姿がみられます。



ミドリシジミ

ミドリシジミ

体長: 16～23mm (前翅長)。オスの羽の内側は緑色の金属光沢があり美しく、「埼玉県の蝶」に指定されています。幼虫はハンノキを食べるため、荒川流域エリア内のハンノキ林(湿性林)でもみられます。



ヘイケボタル

体長: 5～7mm。池沼や水田周辺の湿地、河川の淀み等にすみ、幼虫はカワナナやタニシ類などを食べます。かつては県内各所でみられましたが、現在は減少しています。



サクラソウ

高さ15～40cm (花の茎の高さ)。河川の湿地等に生育し、4月頃に開花します。さいたま市の田島が原では国の特別天然記念物に指定されています。



カタクリ

高さ: 20～30cm (花の茎の高さ) 雑木林の林床で生育し、早春に開花します。

ヒカリゴケ

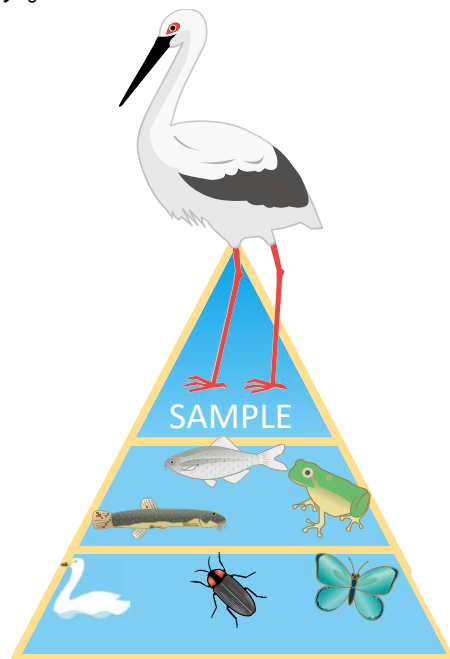
洞窟等、気温と湿度が一定場所に生育するコケ類。洞窟内のわずかな光を反射して光っているように見えます。吉見百穴の自生地は、国の天然記念物に指定されています。



4. 目指す将来像・目標

4.1 荒川流域エコネット地域づくりの狙い

- エコロジカル・ネットワークとは、広く生物多様性を保全するため、優れた自然条件を有している場所や守るべき自然環境を核(コアエリア)と位置付け、生物の移動・分散が可能となるようコアエリア間を関連付ける取り組みです。
- 「関東地域におけるコウノトリトキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想(H27.3)」及び「同基本計画(H28.3)」においては、2050年を目標に、「コウノトリやトキが絶滅の危機から脱し普通種になっているとともに、河川や農地等の水辺には多様な生物にあふれた魅力的な空間が形成されている。また、自然空間を活かした賑わいのある地域づくりが進み、都心部とそれを取り巻く周辺地域との対流現象を契機に、グリーンインフラにより関東地域の安全・安心が担保され、環境と経済と社会が調和した持続可能な社会が形成されている」ことを目指しています。
- 関東エコロジカル・ネットワークの実現を担うエリアのひとつである、荒川流域エリアにおいては、荒川や沿川地域の有する自然環境や人びとの取り組みを活かし、コウノトリを頂点として、多様な生物を育むエコロジカル・ネットワークの形成を図ることを目指します。
- また沿川地域には、地域のシンボルとして、さまざまな個性ある生物が生息・生育しており、これらの保全活動等を通じて、地域の魅力向上・地域づくりに寄与することを目指します。



4. 目指す将来像・目標

4.2 荒川流域エコネット地域づくりの将来像

荒川流域エリアには、生き物の生息環境となる拠点が存在しています。それらの拠点を保全し、拠点間をエコロジカル・ネットワークでつなげることで、地域全体の生きものの生息環境の向上を目指し、そのシンボルとしてコウノトリを設定しています。また、自然環境の保全・再生が流域地域の産業、農業、観光、等に寄与し、私たちの暮らしや地域振興に結び付いていることを表現したいと考えています。

案1: 荒川流域の空にコウノトリを羽ばたかせよう！

※これまでのご意見からアイデアをいただきました。

案2: 荒川の自然を育む営みと人々の暮らしをつなげ、コウノトリと共生する地域づくり

※荒川の有する自然や洪水の歴史なども含めて、コウノトリをシンボルに、荒川流域に自然と人々の暮らしをつなげて共生していくことをイメージしました。

案3: 荒川の自然や人々の営みをつむぎ、コウノトリと暮らす地域づくり

※荒川の有する自然や洪水・治水対策も含めて、荒川を将来につなぎ、コウノトリをシンボルに、共に暮らす地域づくりをイメージしました。

案4: 荒川流域の自然・治水・地域が融合したコウノトリの里づくり

※荒川流域の有する自然や、荒川の治水対策、地域活性化の取り組みのそれぞれが結びつき、コウノトリと人が共生することをイメージしました。

案5: コウノトリが定着できる流域の自然環境を作ろう！

自然環境と地域産業、観光、農業等が連携し、地域の発展に結び付けよう！

※アクションプランの内容を一つにまとめたものをイメージしました。

【参考事例】

つるコウノトリ未来育む阿波の国（吉野川）

生きものがすみやすい場所は 人も きっと 暮らしやすい（利根運河周辺エリア）

遠賀川流域の自然環境を守り、育て、つなげ、歴史・文化とあわせて地域振興を目指します（遠賀川）

人と自然と地域をつなげる エコネット応援団（木曽川）

ツル類が安定的に過ごせる環境の再生（四万十川）

荒川流域エリア版のイラストを作成
（第2回ワーキングまでに作成）
（荒川流域エリアの特徴、シンボル種、将来像や
目標と関連する要素を配置）

5. これまでの取り組み（エコネット地域づくりに関連する地域の取り組み）

荒川及び沿川地域において、これまでに実施されている取り組みの主だったものを示します。また、これらについてSDGsの17のカテゴリーの中で該当する代表的なものを示します。

5.1 生物の生息環境保全に関する取り組み

【河川での取り組み】



荒川太郎右衛門自然再生地

過去に損なわれた自然環境を取り戻すために、旧川の再生や河川敷の掘り下げ等の自然再生を行っています。



ミツ又沼ビオトープ

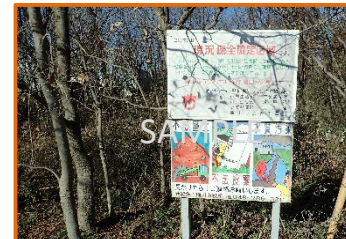
荒川河川敷では、本来の水辺らしい箇所をビオトープとして保全・再生する取り組みが以前から進められています。

【農地での取り組み】



鴻巣市内のふゆみずたんぼに飛来したハクチョウ類

農地の多面的機能支払制度により、コウノトリの生息環境の創出を目指したふゆみずたんぼや水田魚道等が支援されました。



桶川市による水田等の埋立ての防止

各自治体では、減農薬の稲作等も行われています。また、自然環境と遊水機能保全のため、所有者と協定を締結し、江川の水田等の埋立ての防止が行われています。

【里山林での取り組み】



北本市におけるカタクリ自生地の保全

自治体の条例等で里山林が保護されています。里山林によっては、森林の萌芽更新やカタクリの維持管理等が行われています。



オオキンケイギク

オオキンケイギク等の特定外来生物の駆除が積極的に実施されている自治体もあります。また、埼玉県のアライグマ防除計画に基づいてアライグマが駆除されています。

【その他の地域での取り組み】



北本自然観察公園

埼玉県立比企丘陵自然公園や、高尾宮岡ふるさと緑の景観地、北本自然観察公園、八丁湖公園等の緑地が公園として保全管理されています。



サクラソウトラスト地

桶川市の江川沿いのサクラソウトラスト地等、市民レベルで保全活動が展開されている拠点もあります。

5. これまでの取り組み（エコネット地域づくりに関連する地域の取り組み）

5.2 地域振興・経済活性化に関する取り組み

【多様な主体の参加に関する取り組み】



小学校と連携した三ツ又沼
ビオトープの保全活動



関東自治体フォーラムバンフより
北本市トラスト8号地での石戸
小学校児童による田植え体験



吉見町のWebより
市野川クリーンアップ作戦



荒川太郎右衛門自然再生地
のミドリシジミ観察会



鴻巣市のWebより
鴻巣市なつみずたんぼの生きもの調査

「荒川の草花を育てようプロジェクト」等で環境学習として自然観察と自然を守る活動の体験や、小学生の田植え、稲刈りの体験学習等が行われています。

一般参加者を募ったクリーン作戦や企業や民間団体等による河川での清掃活動が活発に実施され、身近な自然環境で活動が実施されています。

三ツ又沼ビオトープや荒川太郎右衛門自然再生地では、ミドリシジミの観察会を開催しています。当日は地元のNPOの方が案内・解説をしています。

鴻巣市で実施されているなつみずたんぼでは、どの程度生きものがいるのかを確認する生きもの調査が行われました。一般の方を対象とした生きもの観察会も開催されました。

【体制づくりや支援策に関する取り組み】



あらかわ市民サポーターの活動

埼玉県による「川の国応援団美化活動団体支援制度」や生物多様性保全活動団体登録制度、国による荒川市民サポーターや河川協力団体制度等、市民をサポートする様々な制度が用意されています。

【観光・イベントやブランドづくりに関する取り組み】



鴻巣市のWebより
「このとり伝説米」



川島町のWebより
「川越藩のお蔵米」



鴻巣市観光協会Webより
へびを退治したこのとりの伝説にちなんだパレード

減農薬による環境にやさしい農産物が作られ、学校給食やふるさと納税の返礼品等としても活用されています。

「このとり伝説」にちなんだパレードが行われる「鴻巣おとりまつり」や、桶川市の「川田谷こどもの森」では自然観察会等、地域の自然環境観に関するイベントが継続的に開催されています。

【広報活動に関する取り組み】



市のWebより
広報かがやき（鴻巣市）



町のWebより
広報かわじま

環境に関する情報の共有・発信として、広報誌のほかにSNS等が活用されています。



「おけがわ春のふれあいフェスタ」でのブース展示

「かわじま輪中の里ウォーキング」や「おけがわ春のふれあいフェスタ」等で、太郎右衛門自然再生の展示ブース等を展示しています。

6. これからの取り組み（エコネット地域づくり推進のためのアクションプラン）

6.1 生物の生息環境保全に関するプラン

- これまで各地で行われてきたビオトープづくりや拠点の維持管理等を、引き続き進めることを基本とします。
- さらに今後10年間で、これまでの経験や実績を活かし、以下のプランについても、協議会関係者の連携・協働等により、より効果が期待できるものなど順次、取り組みを進めていきます。

（ベースとなる取り組み）
これまでの活動継続

協議会関係者が、
河川や農地、里山林、公園等で
これまでに実施してきた各種取り組みを、
それぞれ、引き続き推進する。



プラン① 合同生きもの調査の実施

（イラスト）
田んぼでドジョウなどを
採捕・記録しているようす
…など

【取り組み内容（例）】

- ◎関係者各自で実施している水辺の調査を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。
- ◎関東エコネットで公表されているコウノトリ採餌量調査の手引きを活用するなどし、各地域の河川・農地等における統一した手法による調査実施を支援します（調査体験会の運営補助や機材の貸出し等）。

【目指すもの（10年後）】

- ◎エリア内の環境データが蓄積され、各種取り組みの検討・実施に役立っていること。また、調査の実施を通じ、取り組み認知度が向上（理解者・賛同者の増加）していること。

プラン② ゴミ・外来種問題への対応

（イラスト）
水路を掃除している人や、
その隣でスクミリンゴガイを
捕獲駆除しているようす
…など

【取り組み内容（例）】

- ◎関係者各自で実施している清掃活動や外来種駆除対策を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。
- ◎清掃時等にも活用できる外来種駆除の手引きを作成・配布するなどし、各地域の河川・農地における外来種対策を支援します。

【目指すもの（10年後）】

- ◎エリア内において、環境美化活動とともに、外来種駆除活動が実施（実施回数・場所の増加）されるようになり、希少な在来種等の保全がすすむこと。

プラン③ 環境学習・観察会の推進支援

（イラスト）
コウノトリやミドリシジミを
観察しているようす
…など

【取り組み内容（例）】

- ◎関係者各自で実施している環境学習会や自然観察会を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。
- ◎本プランで挙げた指標種・シンボル種の学習・観察会の実施を支援（開催の運営補助やテキストや機材の貸出し等）します。

【目指すもの（10年後）】

- ◎エリア内において、環境学習・自然観察会が、いまより広く・数多く実施され、地域の学習機会が増えていること。また、それにより取り組み認知度が向上（理解者・賛同者の増加）していること。

6. これからの取り組み (エコネット地域づくり推進のためのアクションプラン)

6.2 地域振興・経済活性化に関する行動計画

- これまで各地で行われてきたビオトープづくりや拠点の維持管理等を、引き続き進めることを基本とします。
- さらに今後10年間で、これまでの経験や実績を活かし、以下のプランについても、協議会関係者の連携・協働等により、より効果が期待できるものなど順次、取り組みを進めていきます。

(ベースとなる取り組み)

これまでの活動継続

議会関係者がこれまでに実施してきた、環境に配慮した観光・農業・学術振興等の各種取り組みを、それぞれ、引き続き推進する。



プラン④ 各種広報の展開

(イラスト)
イベント会場のブースで
コウノトリの模型やパネルを
展示しているようす
…など

【取り組み内容(例)】

- ◎関係者各自で実施している環境関連の催事を、連携・協力(相互参加や技術交流等)により盛り上げます。
- ◎本荒川流域エコネット地域づくりの取り組みの広報を推進(ロゴマークやPR資料の検討・作成、それらを活用した行事出展等)します。

【目指すもの(10年後)】

- ◎エリア内において、取り組み認知度が向上(理解者・賛同者の増加)していること。

プラン⑤ エコツアーの推進支援

(イラスト)
サイクリングしている人が
立ち止まって
サクラソウを観察しているようす
…など

【取り組み内容(例)】

- ◎関係者各自で実施している観光振興の対策を、自然の恵みを活用して支援します。
- (例: 自然観察スポット、特産品、サイクリング・ウォーキングマップ等の関連情報の収集・整理・発信、観光スポットの生態的な価値に関する情報提供等)

【目指すもの(10年後)】

- ◎エリア内において、自然環境を活用した地域観光が実施されていること(新たな集客要素の提供による地域活性化への貢献)。

プラン⑥ 関係者間のネットワーク支援

(イラスト)
子ども、学生、商店主、スーツの人
などが肩を組んでいるようす
…など

【取り組み内容(例)】

- ◎さまざまな場所・機会において、地域関係者間の連携促進を図ります。
- (例: 流域情報の収集・整理・発信、交流会・発表会や人材紹介による地域関係者同士の連携・交流の促進)

【目指すもの(10年後)】

- ◎エリア内において、自然環境・地域振興に取り組む地域関係者間の新たな連携・交流が図られ、各自の取り組み発展に寄与していること。

7. ロードマップ

	方策	2025	2030
関係者協議	荒川流域エコネット地域づくり推進協議会		
アクションプランの推進	これまでの取り組みの継続		
	① 合同生きもの調査の実施		
	・ 取り組み内容①a (プランの細目)		
	・ 取り組み内容①b (プランの細目)		
	② ゴミ・外来種問題への対応		
	③ 環境学習・観察会の推進支援		
	④ 各種広報の展開		
	・ 取り組み内④a (プランの細目)		
	・ 取り組み内④b (プランの細目)		
	⑤ エコツアーの推進支援		
	⑥ 関係者間のネットワーク支援		

中間とりまとめ

2030年の目標年度に向けて、段階的に進め、2025年度に取り組み内容を振り返り(中間とりまとめ)、必要に応じて計画見直しを行い、荒川流域エリアのエコロジカル・ネットワークによる魅力的な地域づくりを進めていきます。

8. 連携・協働方策

方策	事務局	河川管理者	自治体	市民団体	研究者	〇 〇 〇 〇 〇	連携・協働による進め方(案)
これまでの取り組みの継続	◎	◎	◎	◎	◎	◎	協議会関係者それぞれの取り組みを継続するとともに、連携・協力することが効果的なものは、事務局が調整を図ります。
① 合同生きもの調査の実施							
・ 取り組み内容①a (プランの細目)							
・ 取り組み内容①b (プランの細目)							
② ゴミ・外来種問題への対応	◎		◎	○	○		既往清掃活動時に外来種駆除も実施していただけるよう、資料提供(事務局が作成)講師派遣(市民団体・研究者に協力をお願い)を進めます。
③ 環境学習・観察会の推進支援							
④ 各種広報の展開							
・ 取り組み内④a (プランの細目)							
・ 取り組み内④b (プランの細目)							
⑤ エコツアーの推進支援							
⑥ 関係者間のネットワーク支援							